

- ・追加・変更箇所は**赤字**で表記。改訂日付は最新のみを記載。
- ・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/10/08

改訂 2025/03/25

【Bengawan Solo】変更と注意事項

<曲を通じて>

- ・演奏方針：原語で歌う。原語の歌詞は、まずはカタカナで構わないので体に入れ込む。そのうえで原語っぽさを追求するのは各自判断。なお、譜面の言語表記で、線でつながっているのが1単語。原語の歌を聞くのも参考になる。「e はウに近いエ」「ke はケとクの間」「per はプルとベルの間」など曖昧母音。また、歌詞のアルファベットは「子音」のみ発音するという意図。日本語にはなく難しい。
- ・曲想：メロディよりも、後半(37小節～)のリズムが難しいがこれは歌い込めば解決する。
リズムの習得は、歌って慣れる→譜面と照合の順（譜面→歌うの逆順）でもよいかも。
曲中のリズムパートは、タンゴのリズム感をイメージして、メロディパートとのメリハリをつける。
リズムセクションは休符のメリハリをつけるため、譜面通り正確に。
8分音符は短めにパシッと切って遊び感を出す。
37～小節 全パート 8分音符はスタッカート気味に切る。
休符は、「無音を演奏」する意識で。
楽譜読めなくても、耳とノリでリズムを体に覚え込ませて。
Hu は「ホに近いフ（縦のフ）」Fu ではない。
42,50,66小節の1,2拍「la la」のリズム。
全パート 音符の違いに注意。
42小節8分音符で切る。50 66小節スラーで延ばす。

<全体事項>

- ・音符のリズムを正確に。
同じメロディラインでも違うリズムはきちんと歌い分ける。特に休符はオンビートで正確に無音にすることが重要。休符をきちんととらえていないと本番のテンポ（練習より早め）になると音がつながってメリハリがなくなってしまう。
- ・まずは、音とリズムをきちんと覚えていく。歌詞は自主練して、練習で答え合わせをしてもらってもよい。
- ・歌詞は自宅自主練の繰り返しあるのみ。

「口に覚えさせる」「書いてみる」が有効。

その際、譜面の「子音」をきちんと入れるのが重要だが、原曲は穏やかな柔らかい雰囲気なので、強調しすぎずに。

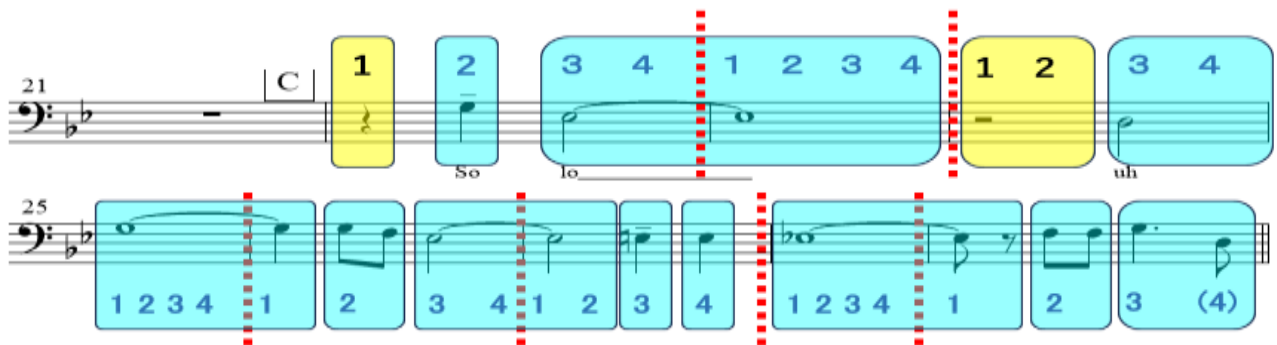
・譜面上、シラブル（-）でつながっているのが 1 つの単語。この単語の途中で切らないことが重要。

実は、後半のリズムの切れ目と単語の切れ目が符合している。

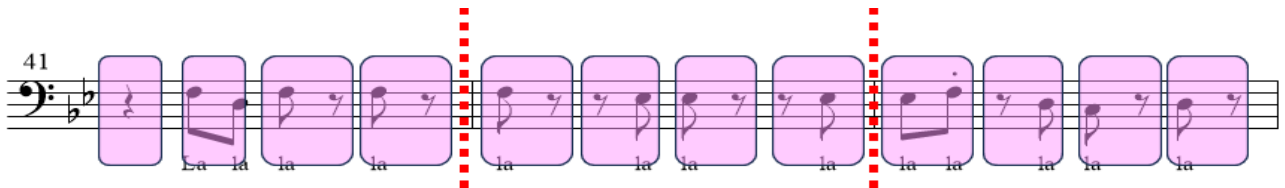
・T1 と T2、B1 と B2 のユニゾンの音はきちんとそろえること。

・拍の数え方①：小節をまたいでカウントアップしない。拍子記号を意識して小節内で 1,2,3,,,。

この曲は 4 分の 4 なので小節ごとに「1,2,3,4」（小節をまたいで「1,2,3,4,5,6,,,」としない）。



・拍の数え方②：裏打ちが出てくるところは、小節内で 1 拍ずつ括ると見やすい。



<個別事項>

- ・5,69 小節 全パート 「ブンガワン」と「ソ」の間の 8 分休符はきちんと切る。ダラーツと伸ばさない。
- ・7,15,31,74 小節 B1 3,4 拍目は「G→G」と同じ音を強く意識。「G→#F」と歌わないように。
- ・T2 11,19 小節 2 音目は「B」（「D」に上がらないように注意）。
- ・15 小節 全パート tak 'bera-pa は、8 分音符で意外に早口になる。
- ・21 小節～ T1B1B2 しっかり音を出して、その和音の上に T2 ソロが乗られるように。
- ・23 小節 T2 歌詞は大げさに口を動かしてしゃべることで体が覚えてくる。慣れればアルファベットのほうが読みやすいかも。子音を強調してリズム感をだすと歌いやすい。
- ・25 小節 T2 「Air」を少し詰めて、「menga」を食い気味にすれば 8 分音符に収めやすいかも。
- ・25 小節 T1 「F」音が高いが気張らずきれいに。27-28 小節 D→B→C は音程を丁寧に上下。

- ・B1 27,59 小節 「 $\sharp E$ 」キーとなる音、美味しく正確に。

26 小節 1 拍目の後にキチンとブレスして、2 拍目以降をきちんと歌う。

27-28 小節 の「Uh—クラウ」の半音進行 ($\flat E$ $\sharp E$ $\sharp E$ $\flat E$) はきれいに響かせて。

ちなみに、59-60 小節の音の進行はこと近い。

- ・27 小節 全パート「クラウ」の「ク」の子音「k」をしっかりと発音する。
- ・28 小節 全パート 29 小節 1 拍目まで音を伸ばす。
- ・29 小節 全パート 1 拍目「t」は音程を優先とし有声音「トゥツ」とする（片仮名のト/ツ は NG）。

- ・**37～小節 全パート 8 分音符はスタッカート気味に切る（メロディとの違いを際立たせるため）。**
Hu は「ホに近いフ（縦のフ）」Fu にならないように。

もっと楽しい雰囲気をだしてビートを刻んで。

- ・38 46 小節 1 拍目 T1T2 掛け合いのメリハリのため 4 分音符できちんと切る、B1B2 の出だしにかぶせない。 ※ただし 40 48 小節は 2 分音符。直後に B1B2 の 8 分音符が聞こえる感じ。
- ・39,47,63 小節 T2 メロディラインではなく、もっと低い音程なのできちんと確認。
- ・42,50,66 小節の 1,2 拍「la la」のリズム。

全パート 音符の違いに注意。

42 小節 8 分音符で切る。50 66 小節スラーで延ばす。

- ・44 小節 全パート 1 拍目の 4 分休符は赤丸注意！ 間違って飛び出すと目立つ。
2 拍目の 8 分音符はスタッカートで切れよくメリハリをつける。この小節は、「la ッ La—」と音の間に促音を入れるイメージで。
- ・56 小節 T2 4 拍目のリズムに注意。（8 分休符+13/18 2つ）。
- ・60 小節 T2B1B2 1 拍目の 4 分休符は赤丸注意！ 間違って飛び出すと目立つ。

T1 ロングトーン担当なので、縦にきれいに響かせて。